

# 2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

2023年11月10日

株式会社 小森コーポレーション

# Contents

---

1. 2024年3月期第2四半期業績および通期計画 (P4~34)  
取締役管理本部長 橋本 巖

2. 2024年3月期 上期経営概況 (P35~48)  
代表取締役社長 持田 訓

# 2024年3月期 第2四半期 業績および通期計画

2023年11月10日

株式会社 小森コーポレーション

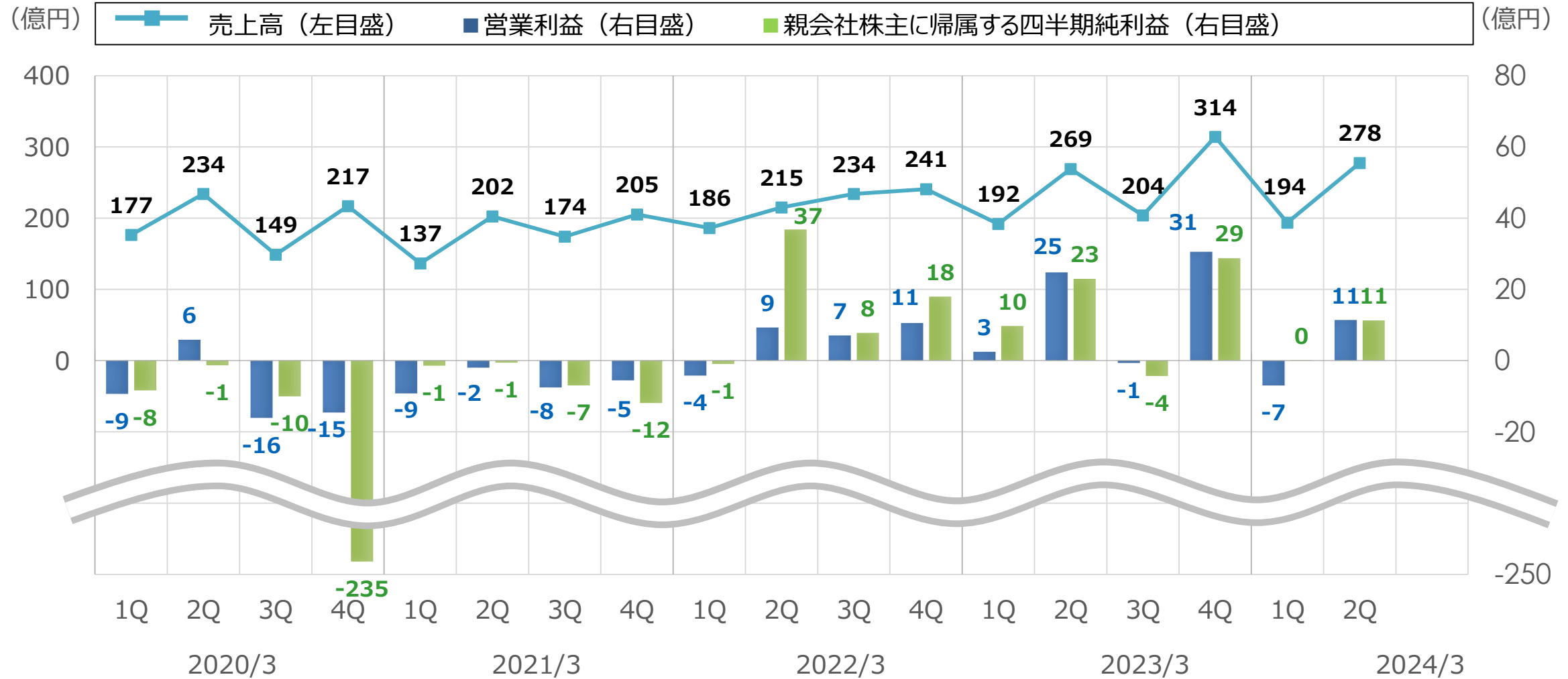
(単位：億円)

		2024/3 上期実績	2023/3 上期実績	差額	前年 同期比	2024/3 上期計画	差額	計画比
受注高		482	504	△ 22	96%	515	△ 33	94%
売上高		471	461	10	102%	490	△ 19	96%
営業利益		4	27	△ 23	16%	3	1	148%
経常利益		20	41	△ 21	48%	3	17	661%
親会社株主に帰属する 四半期純利益		11	33	△ 21	35%	1	10	1146%
平均レート (円)	US\$	141.31	133.46	/		125.00	/	
	EUR	153.51	138.79			135.00		
期末レート (円)	US\$	149.58	144.81			125.00		
	EUR	158.00	142.32			135.00		

(単位：億円)

	2Q末 2023.9.30	前期末 2023.3.31	差額
短期金融資産	524	634	△110
売上債権	205	196	9
棚卸資産	438	374	64
うち製品	205	164	41
有形固定資産	181	180	1
無形固定資産	31	33	△2
その他資産	265	238	27
資産合計	1,644	1,655	△12
仕入債務	207	208	△1
短期借入金	3	4	△1
社債	100	100	0
長期借入金	2	2	0
その他負債	261	269	△9
負債合計	573	584	△11
純資産	1,071	1,071	△1
負債・純資産合計	1,644	1,655	△12

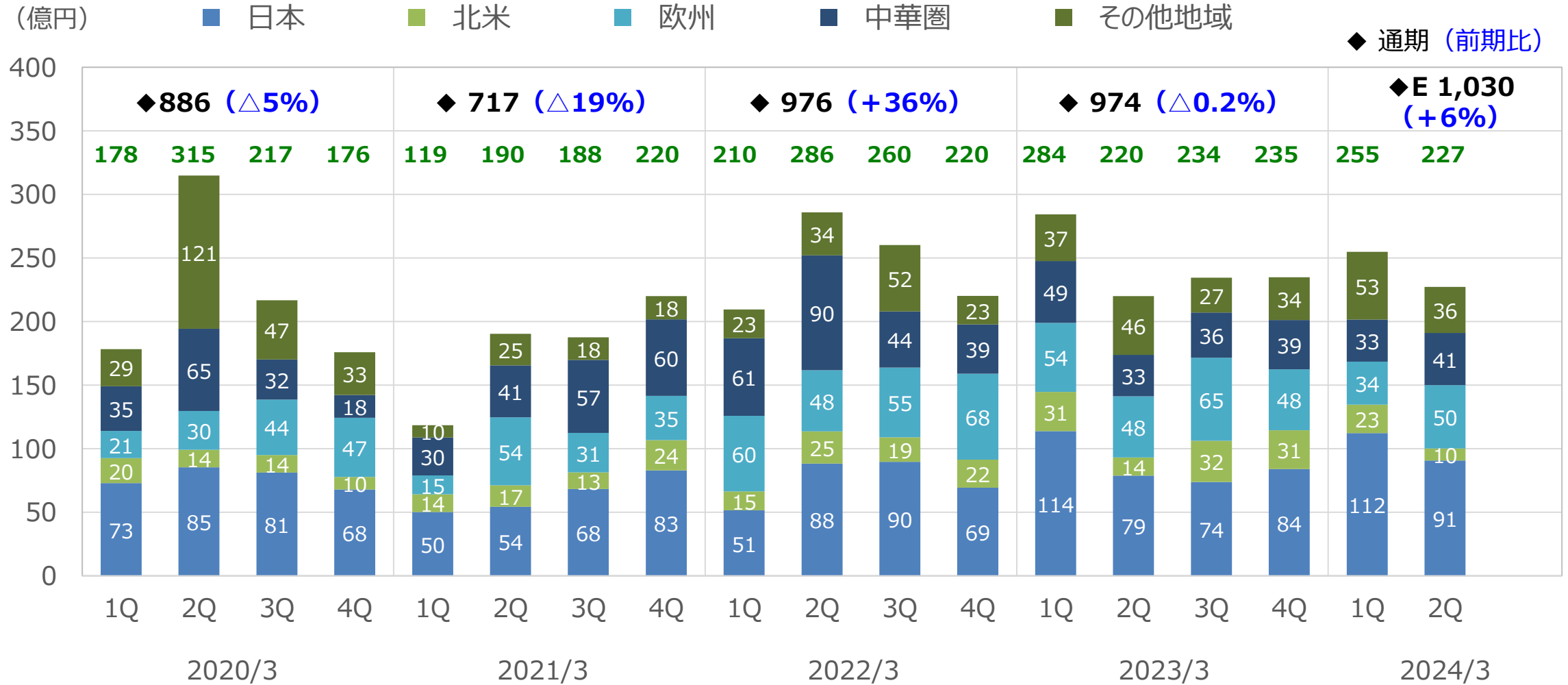
# 売上高・損益の推移



(単位：億円)

	2024/3 上期実績	2023/3 上期実績	前年 同期比
日本	203	192	105%
北米	32	45	71%
(百万ドル)	(23)	(34)	(67%)
欧州	84	102	82%
(百万ユーロ)	(54)	(74)	(74%)
中華圏	74	81	91%
その他地域	90	83	108%
合計	482	504	96%

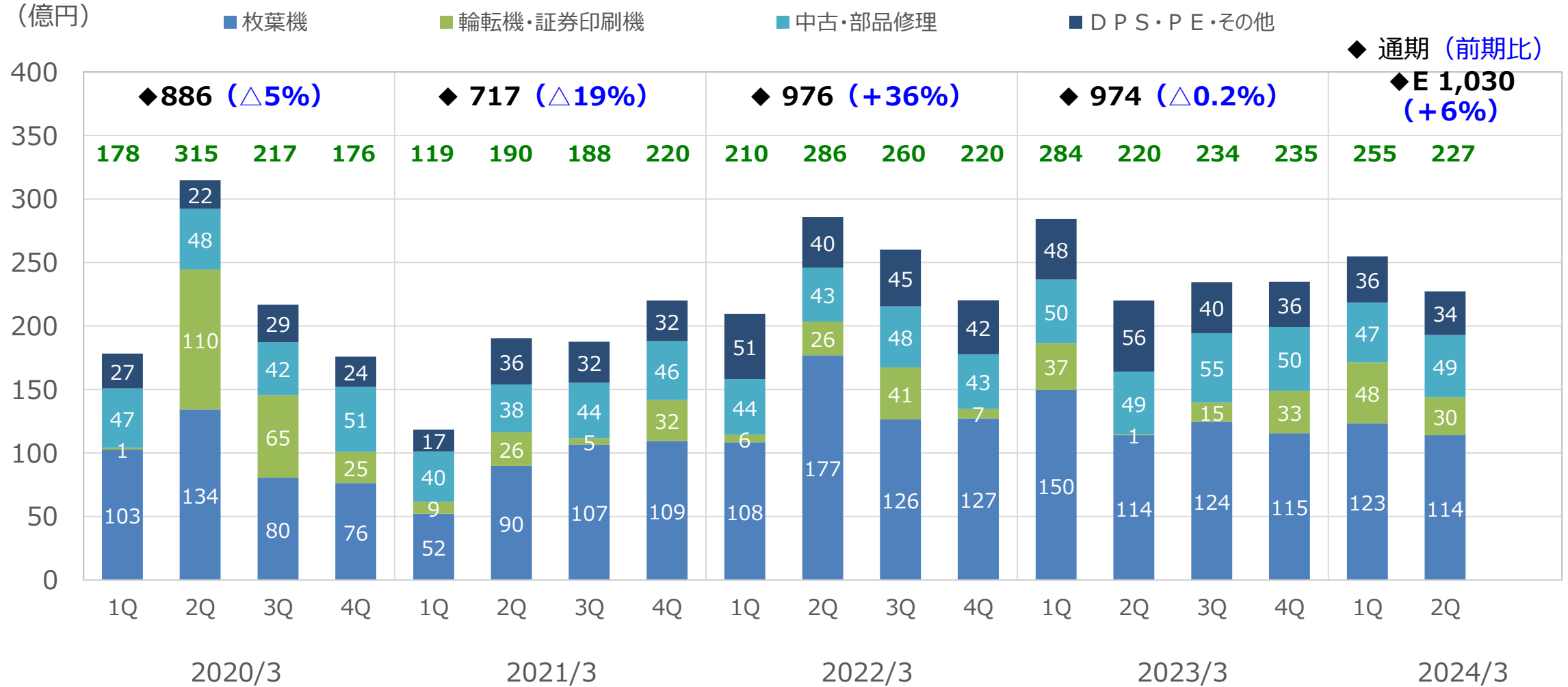
# 地域別受注高





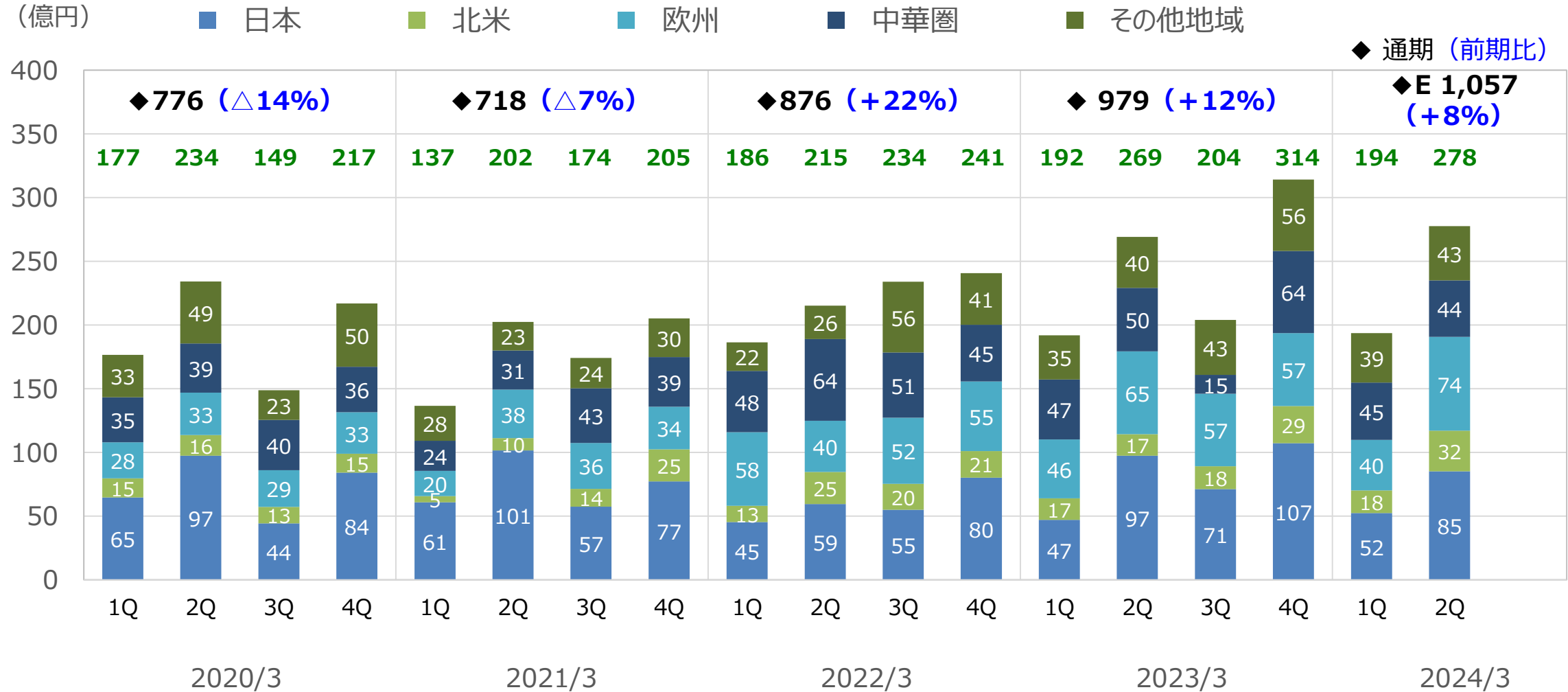
(単位：億円)

	2024/3 上期実績	2023/3 上期実績	前年 同期比
枚 葉 機	237	264	90%
輪転機・証券印刷機	78	38	207%
中古機・部品修理	96	99	97%
DPS・PE・その他	71	104	68%
合 計	482	504	96%



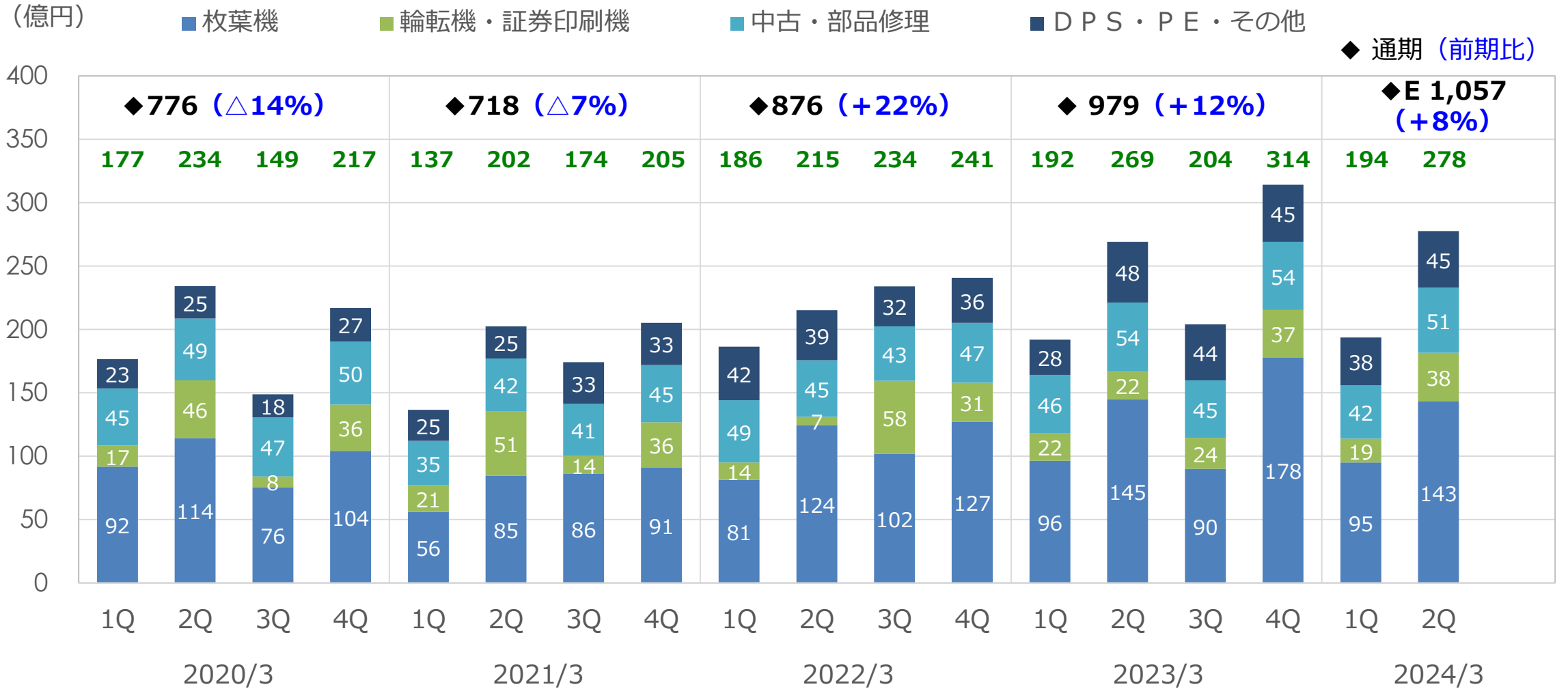
(単位：億円)

		2024/3 上期実績	2023/3 上期実績	前年 同期比
日 本		138	144	95%
北 米		50	34	146%
	(百万ドル)	(35)	(25)	(138%)
欧 州		113	111	102%
	(百万ユーロ)	(74)	(80)	(92%)
中 華 圏		89	97	92%
そ の 他 地 域		81	74	109%
合 計		471	461	102%

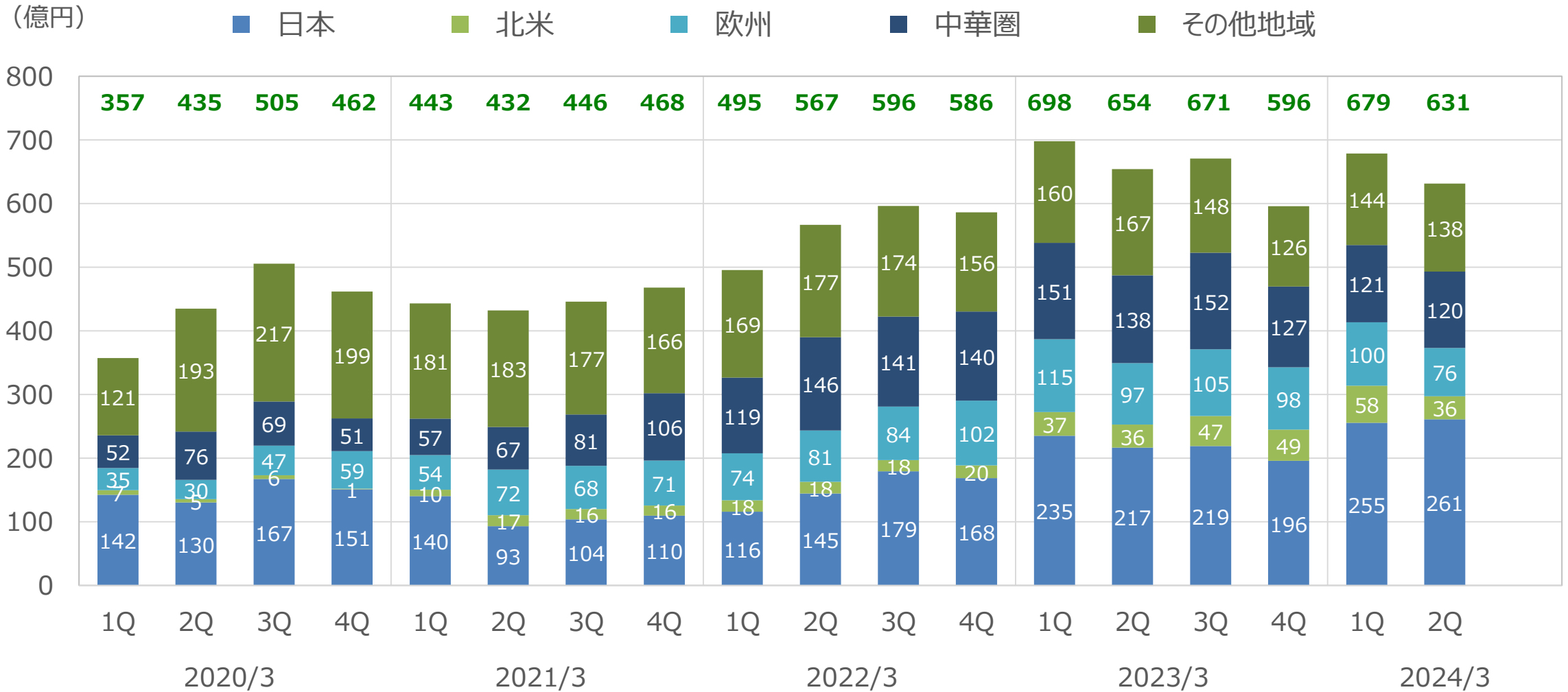


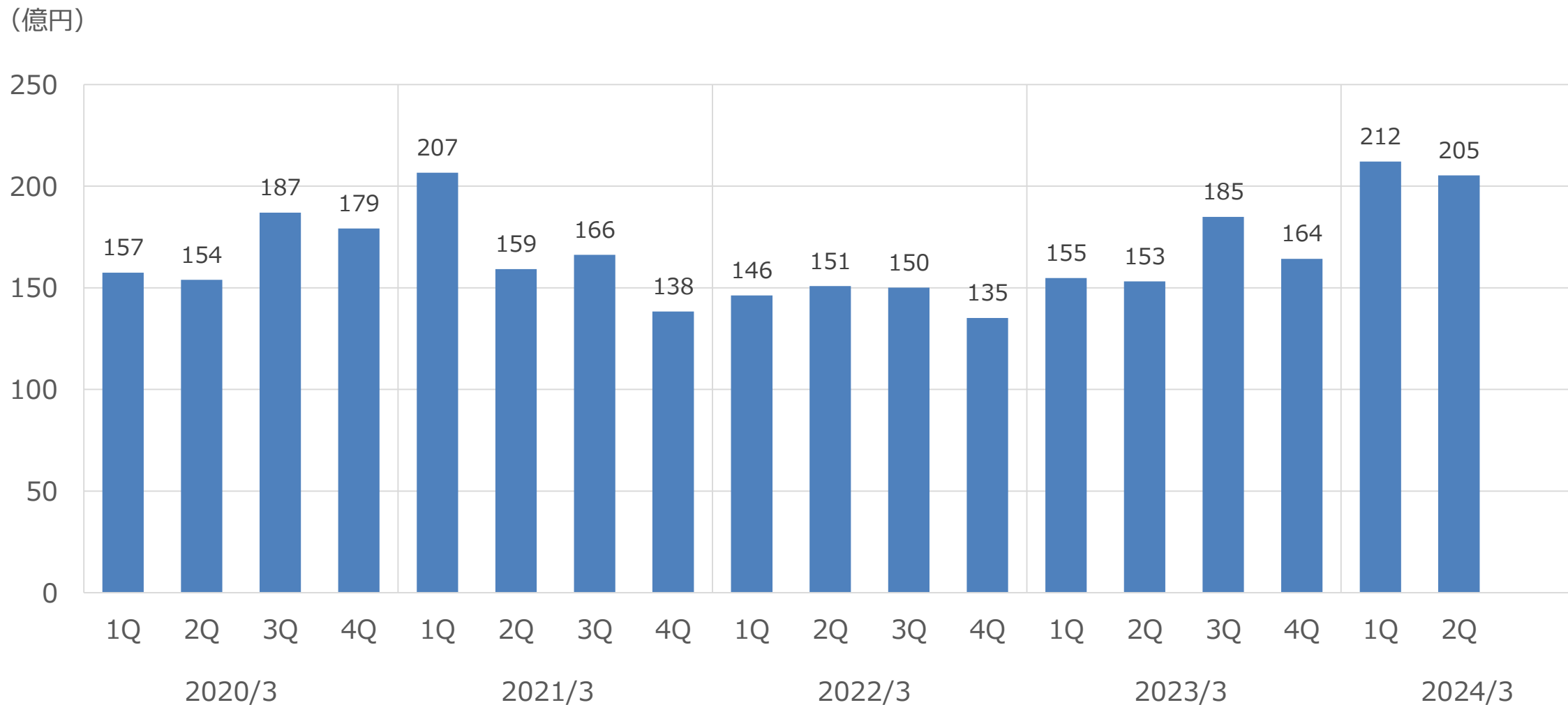
(単位：億円)

	2024/3 上期実績	2023/3 上期実績	前年 同期比
枚葉機	238	241	99%
輪転機・証券印刷機	57	44	130%
中古機・部品修理	94	100	93%
DPS・PE・その他	83	76	109%
合計	471	461	102%



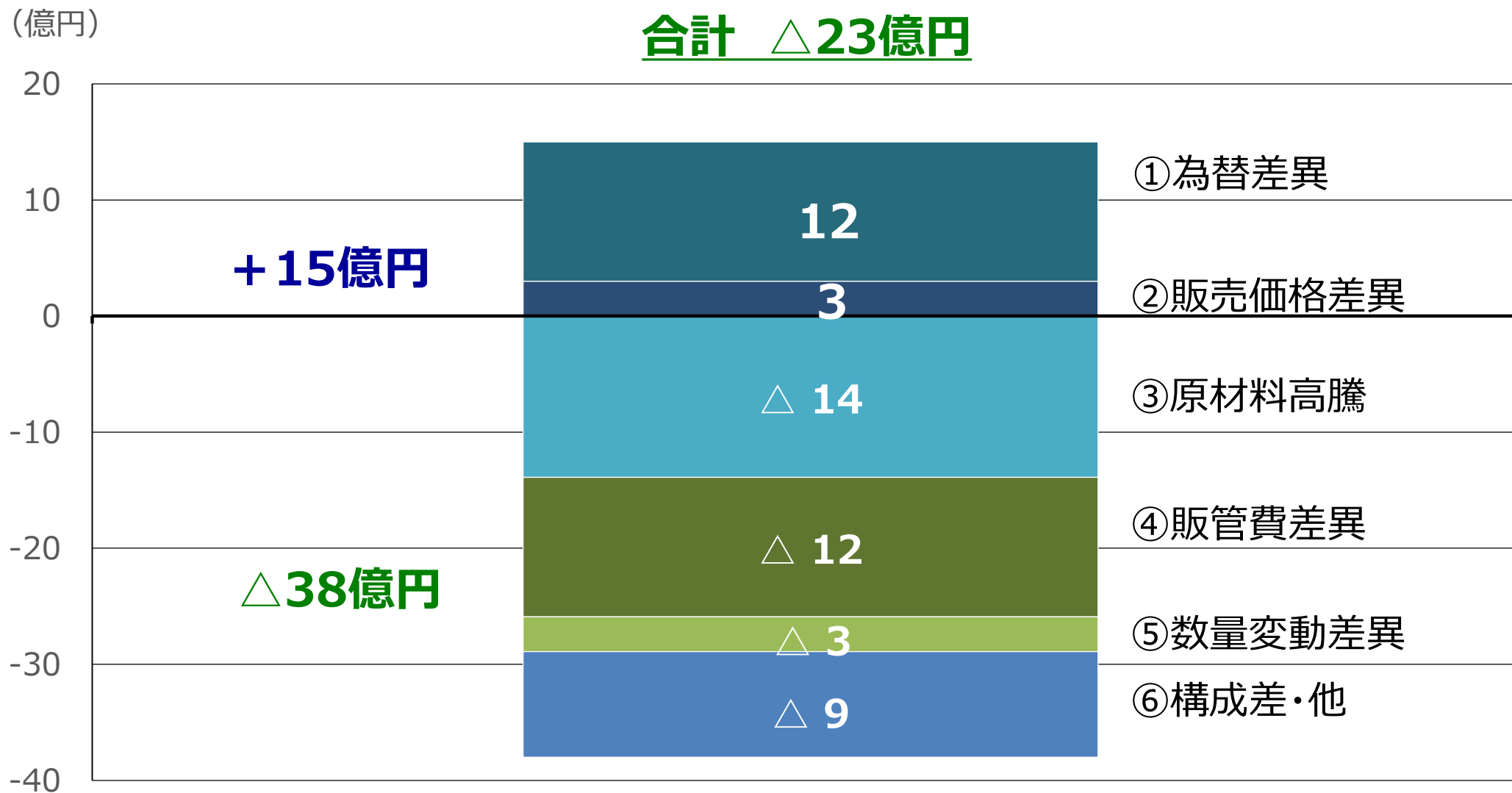
# 受注残高の推移







# 営業損益の変動要因（対 前年同期比）



(単位：億円)

		2024/3 上期実績	<2Q修正> 2024/3 下期計画	<2Q修正> 2024/3 通期計画	2023/3 前期実績	差額	前期比
受注高		482	548	1,030	974	56	106%
売上高		471	586	1,057	979	78	108%
営業利益		4	29	33	57	△24	58%
経常利益		20	25	45	66	△21	68%
親会社株主に帰属する 当期純利益		11	20	31	57	△26	54%
平均レート (円)	US\$	141.31	135.00	138.40	134.95	/	/
	EUR	153.51	145.00	149.58	141.24		
期末レート (円)	US\$	149.58	135.00	135.00	133.53		
	EUR	158.00	145.00	145.00	145.72		

(単位：億円)

	2024/3 上期実績	<2Q修正> 2024/3 下期計画	<2Q修正> 2024/3 通期計画	2023/3 前期実績	差額	前期比
日 本	203	116	319	350	△32	91%
北 米	32	58	90	108	△19	83%
	(百万ドル)	(23)	(42)	(65)	(△15)	(81%)
欧 州	84	129	213	216	△3	99%
	(百万円)	(54)	(88)	(142)	(△11)	(93%)
中 華 圏	74	113	188	155	32	121%
そ の 他 地 域	90	132	222	144	77	154%
合 計	482	548	1,030	974	56	106%

(単位：億円)

	2024/3 上期実績	<2Q修正> 2024/3 下期計画	<2Q修正> 2024/3 通期計画	2023/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	237	241	478	503	△26	95%
輪転機・証券印刷機	78	110	189	87	102	218%
中古機・部品修理	96	108	204	204	0	100%
DPS・PE・その他	71	89	159	179	△20	89%
合 計	482	548	1,030	974	56	106%

(単位：億円)

	2024/3 上期実績	<2Q修正> 2024/3 下期計画	<2Q修正> 2024/3 通期計画	2023/3 前期実績	差額	前期比
日 本	138	209	347	323	24	107%
北 米	50	57	106	81	26	132%
(百万ドル)	(35)	(42)	(77)	(60)	(17)	(128%)
欧 州	113	123	237	225	11	105%
(百万円)	(74)	(84)	(158)	(160)	(△2)	(99%)
中 華 圏	89	97	186	176	10	105%
そ の 他 地 域	81	100	181	174	8	104%
合 計	471	586	1,057	979	78	108%

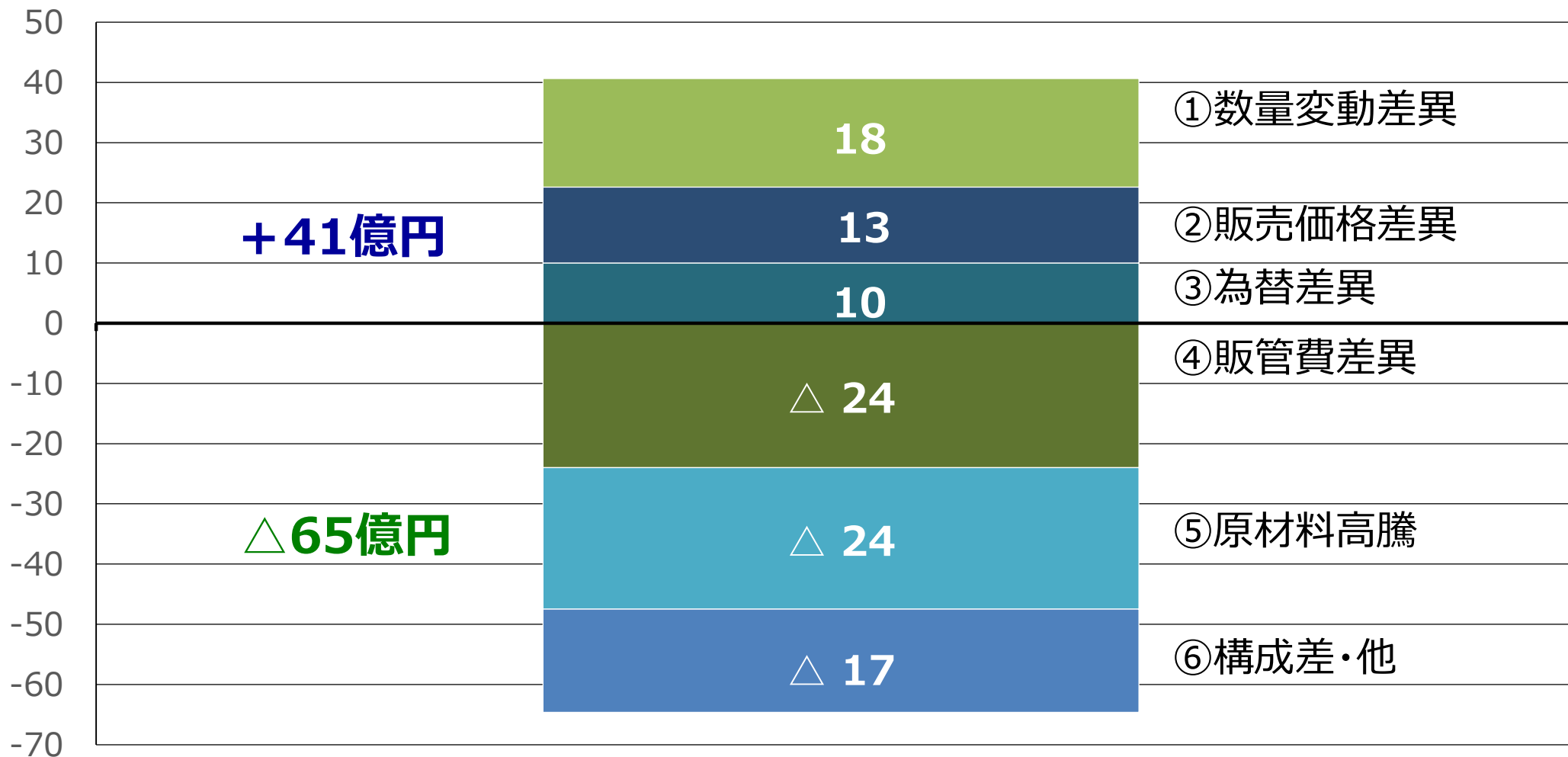
(単位：億円)

	2024/3 上期実績	<2Q修正> 2024/3 下期計画	<2Q修正> 2024/3 通期計画	2023/3 前期実績	差額	前期比
枚 葉 機	238	313	551	509	42	108%
輪転機・証券印刷機	57	72	129	106	23	122%
中古機・部品修理	94	107	201	200	1	101%
DPS・PE・その他	83	94	177	165	12	107%
合 計	471	586	1,057	979	78	108%

# 通期営業損益の変動要因 (対 前期比)

(億円)

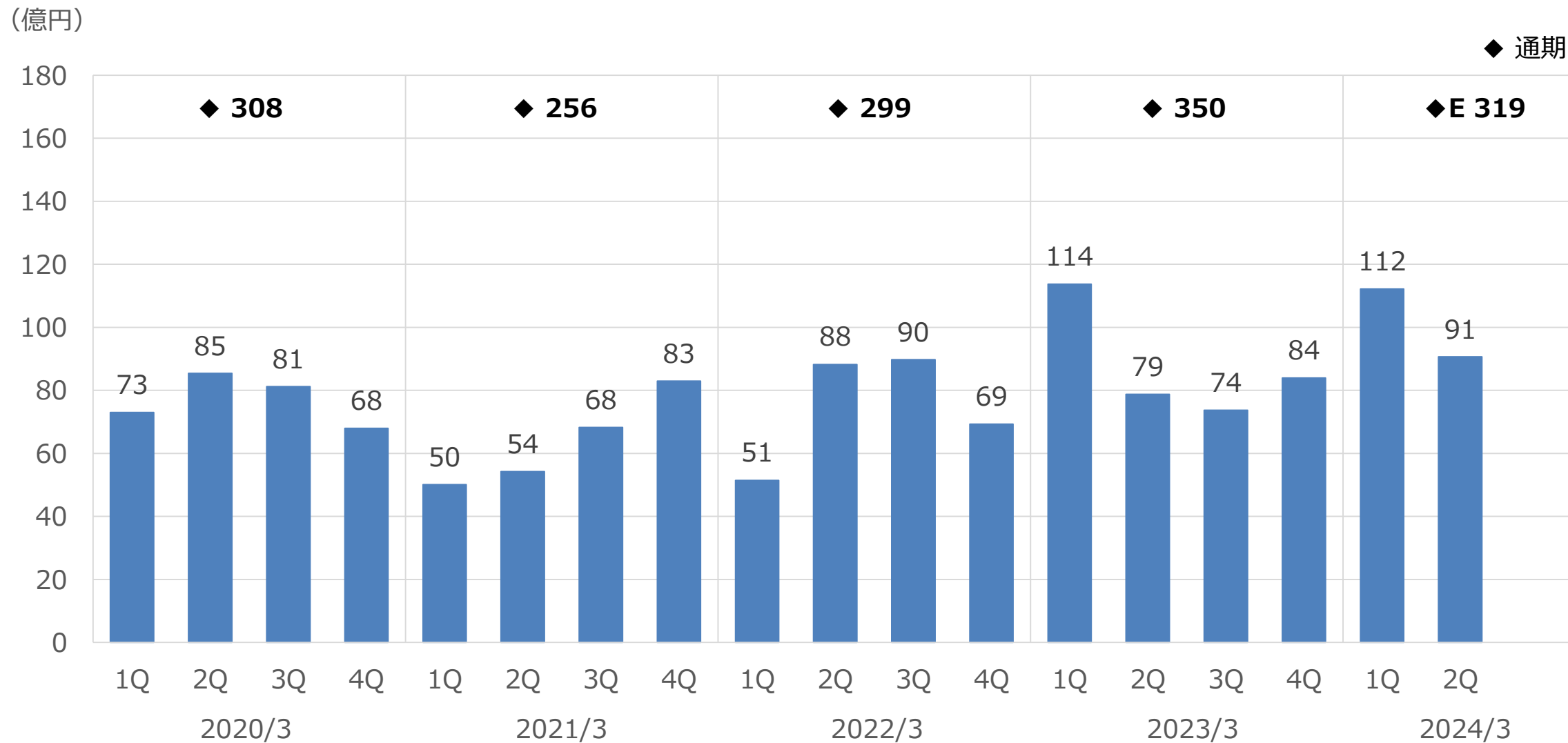
**合計  $\triangle$  24億円**

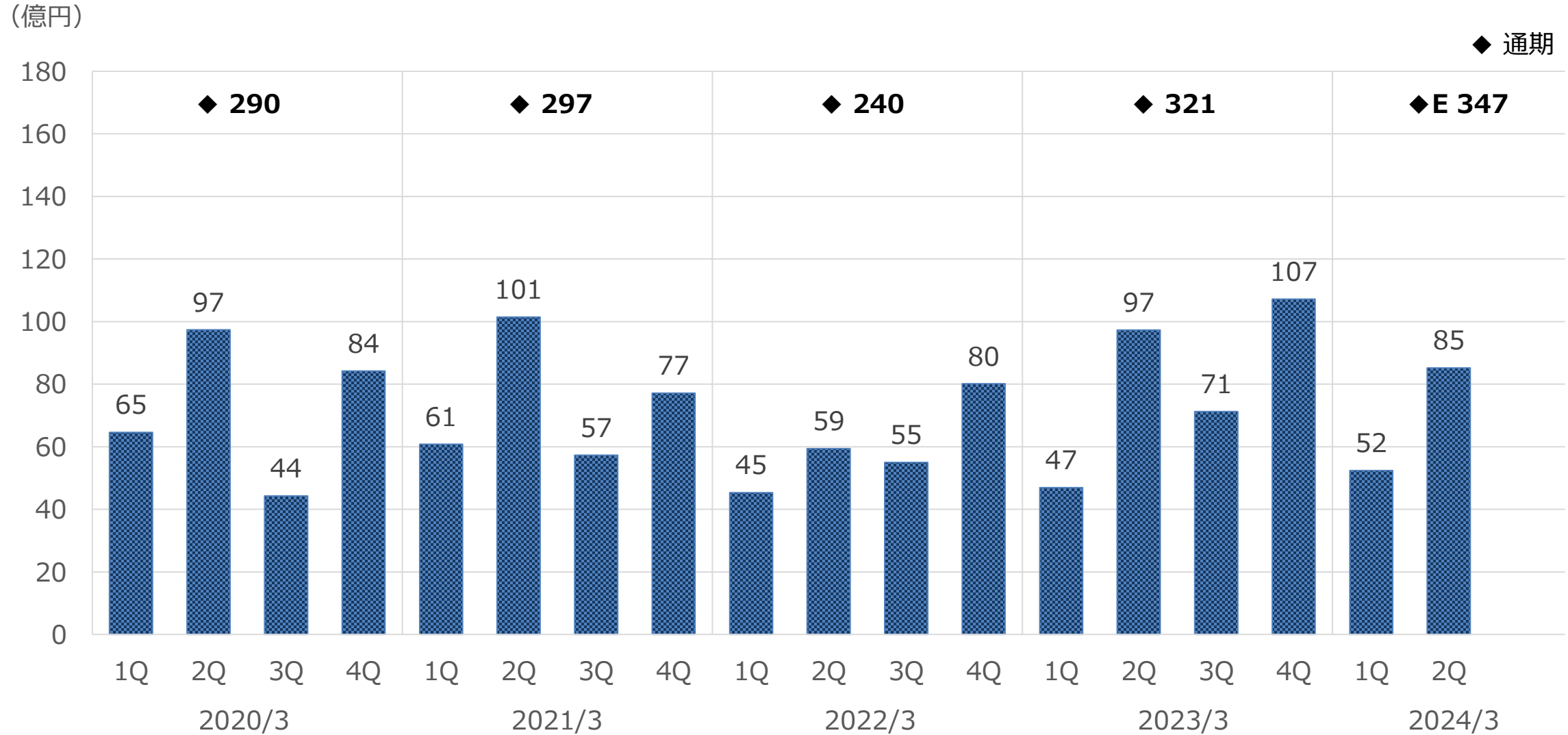


(単位：百万円)

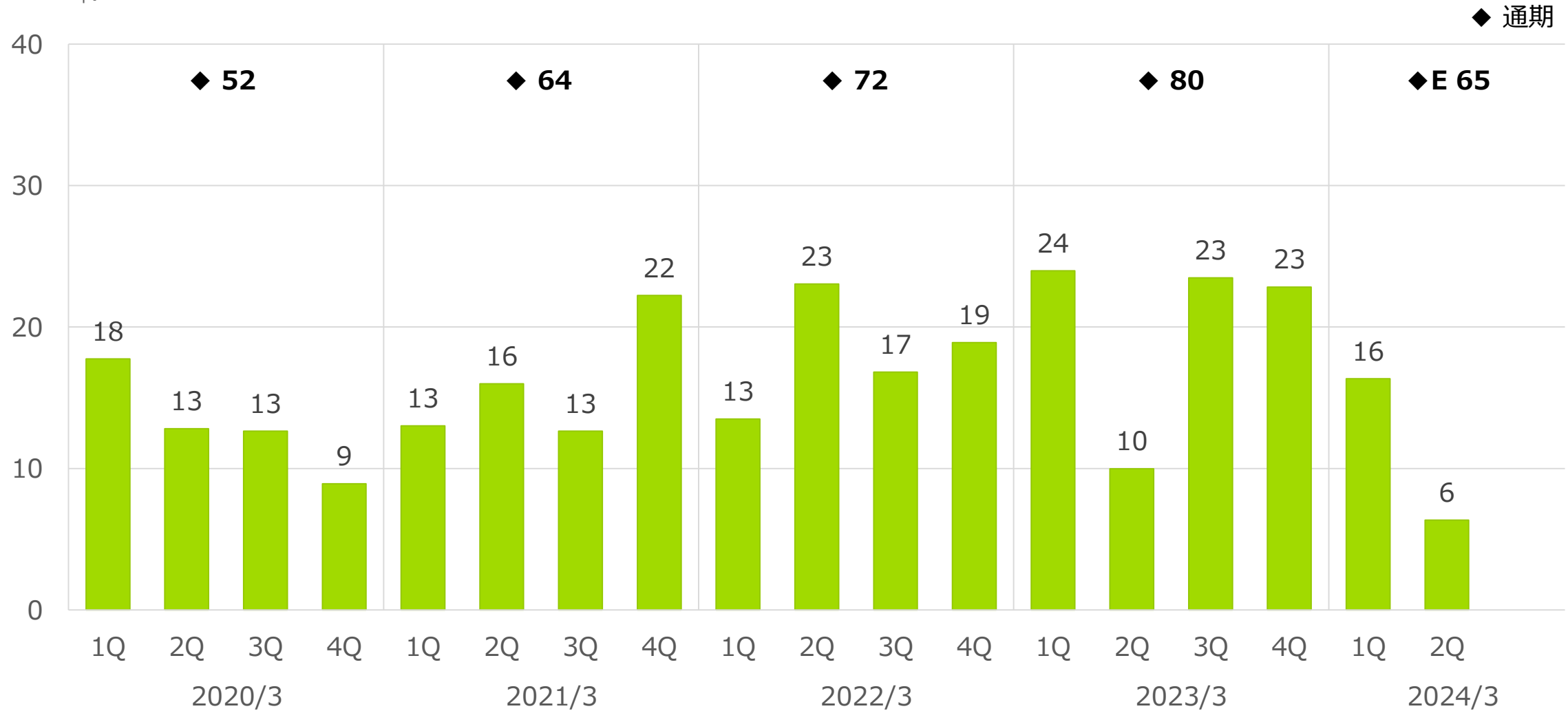
	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3 上期	2024/3 予想
従業員数（名）	2,363	2,686	2,613	2,567	2,600	2,620
人件費	20,386	20,199	22,122	23,246	12,248	24,200
設備投資額	1,678	1,394	2,371	2,303	621	3,900
減価償却費	2,304	1,604	1,877	1,896	960	2,000
研究開発費	4,899	4,002	4,050	3,654	2,108	4,100
（売上高比）	(6.3%)	(5.6%)	(4.6%)	(3.7%)	(4.5%)	(3.9%)



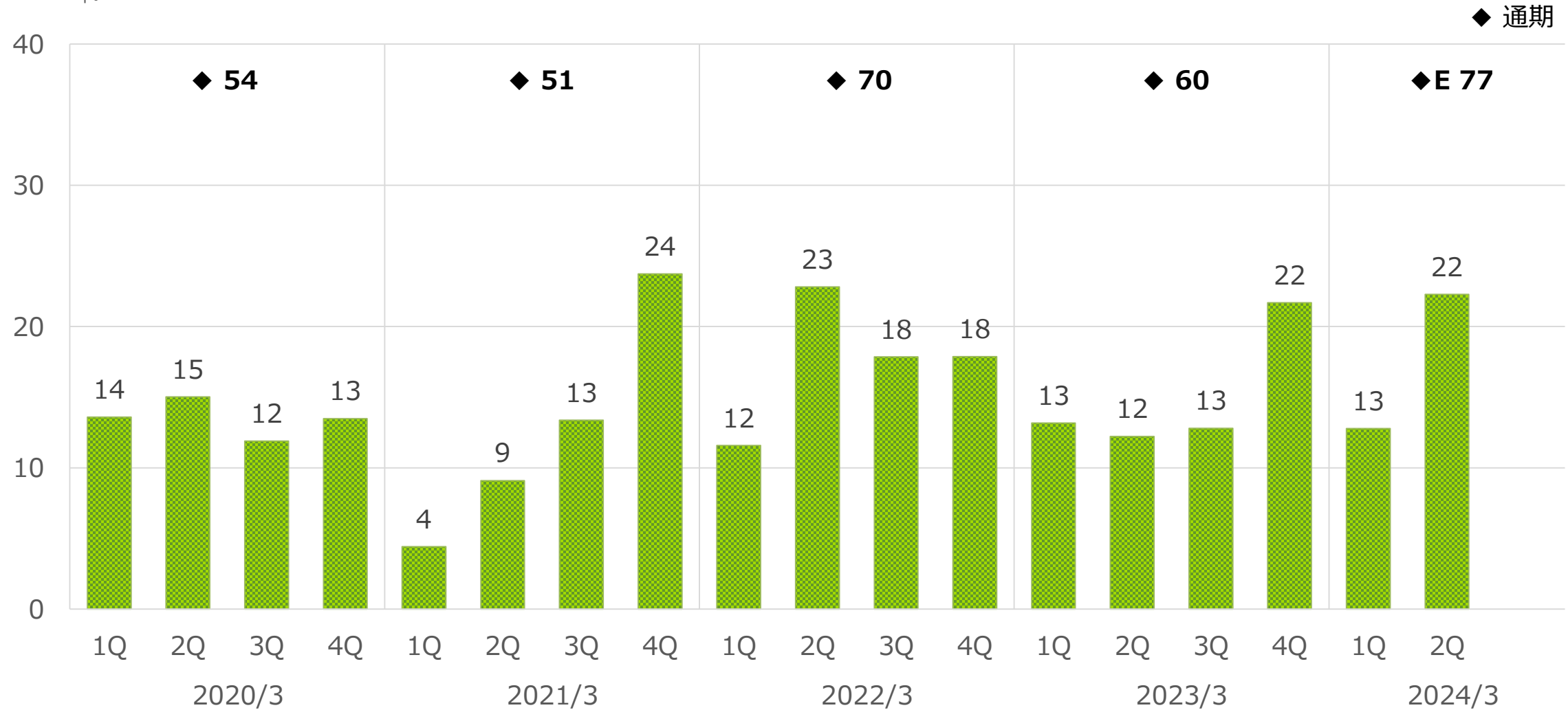




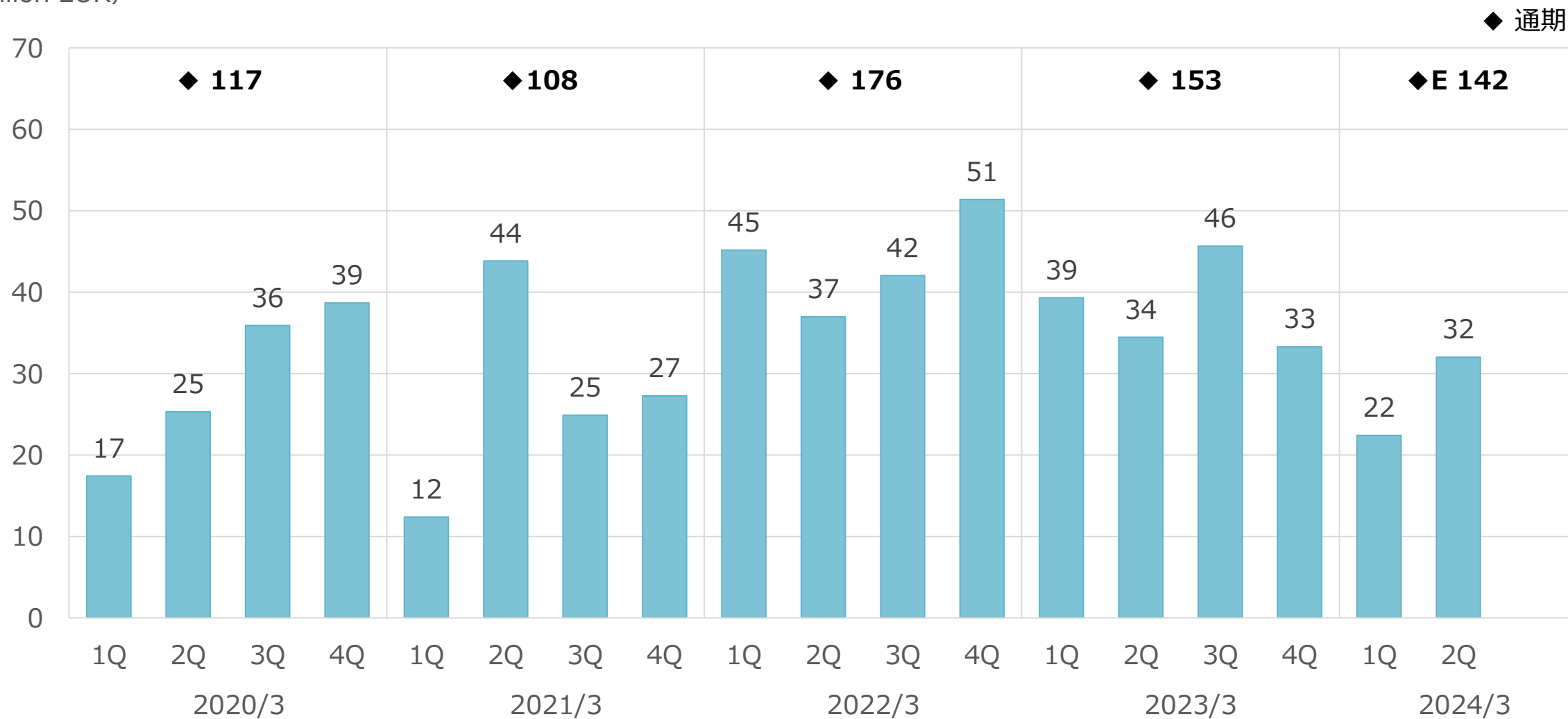
(million \$)



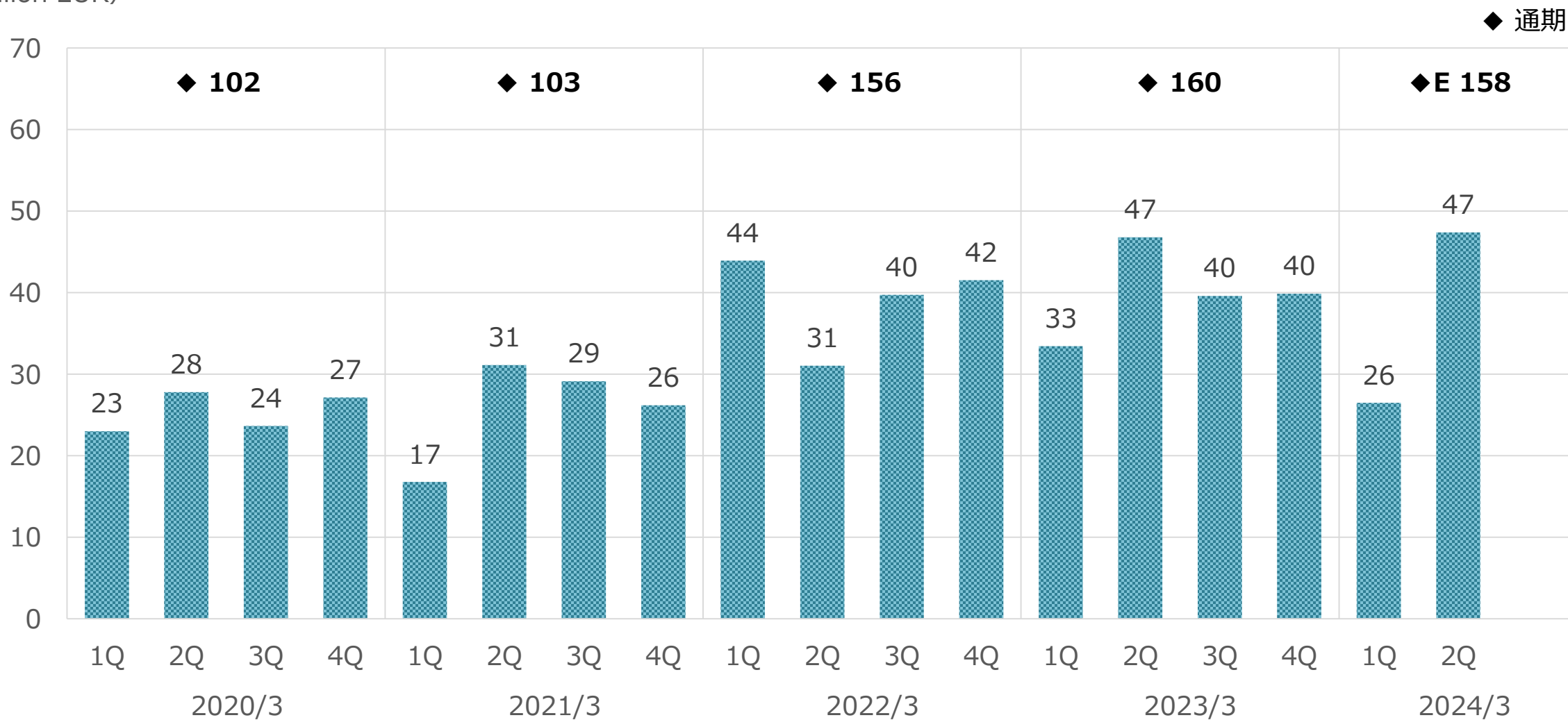
(million \$)

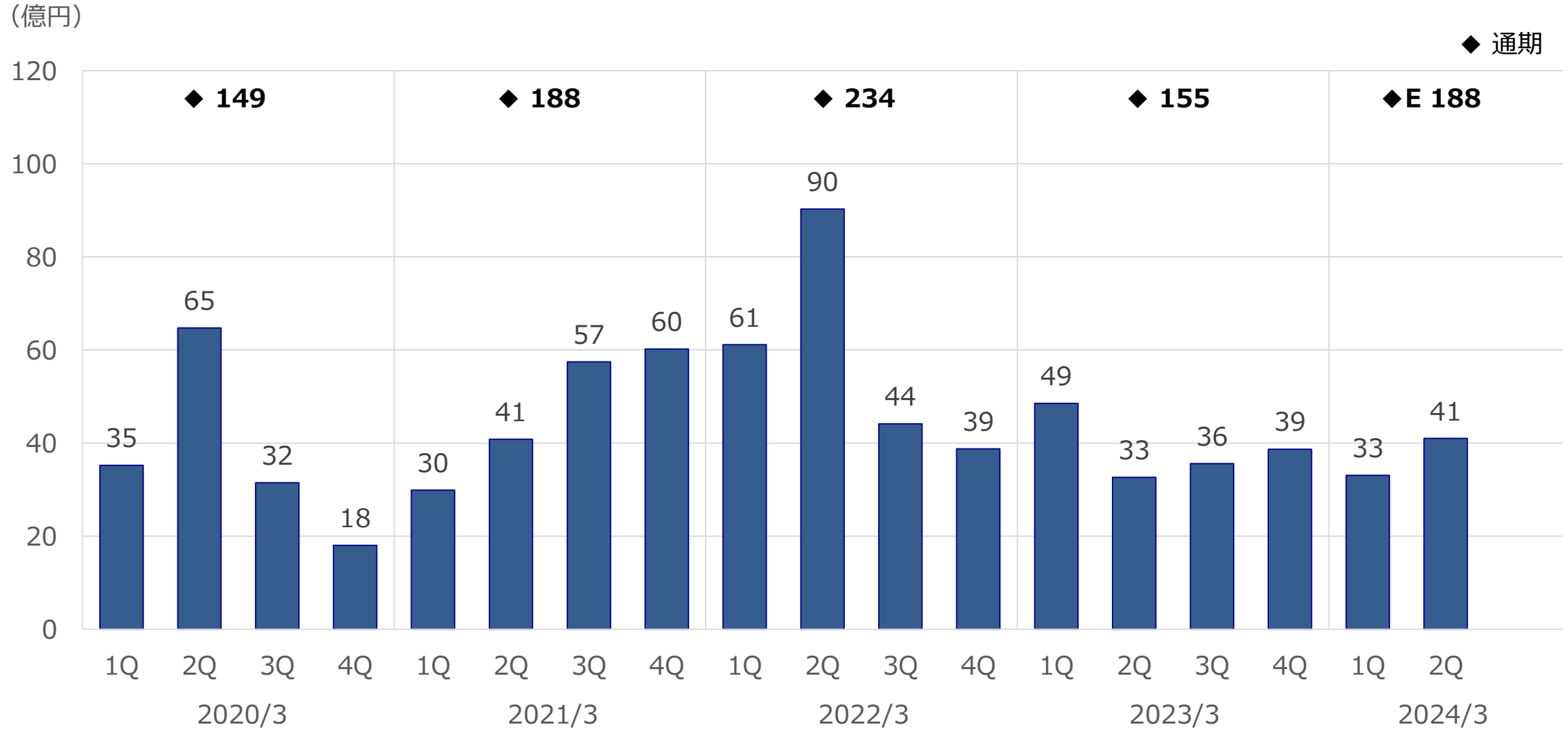


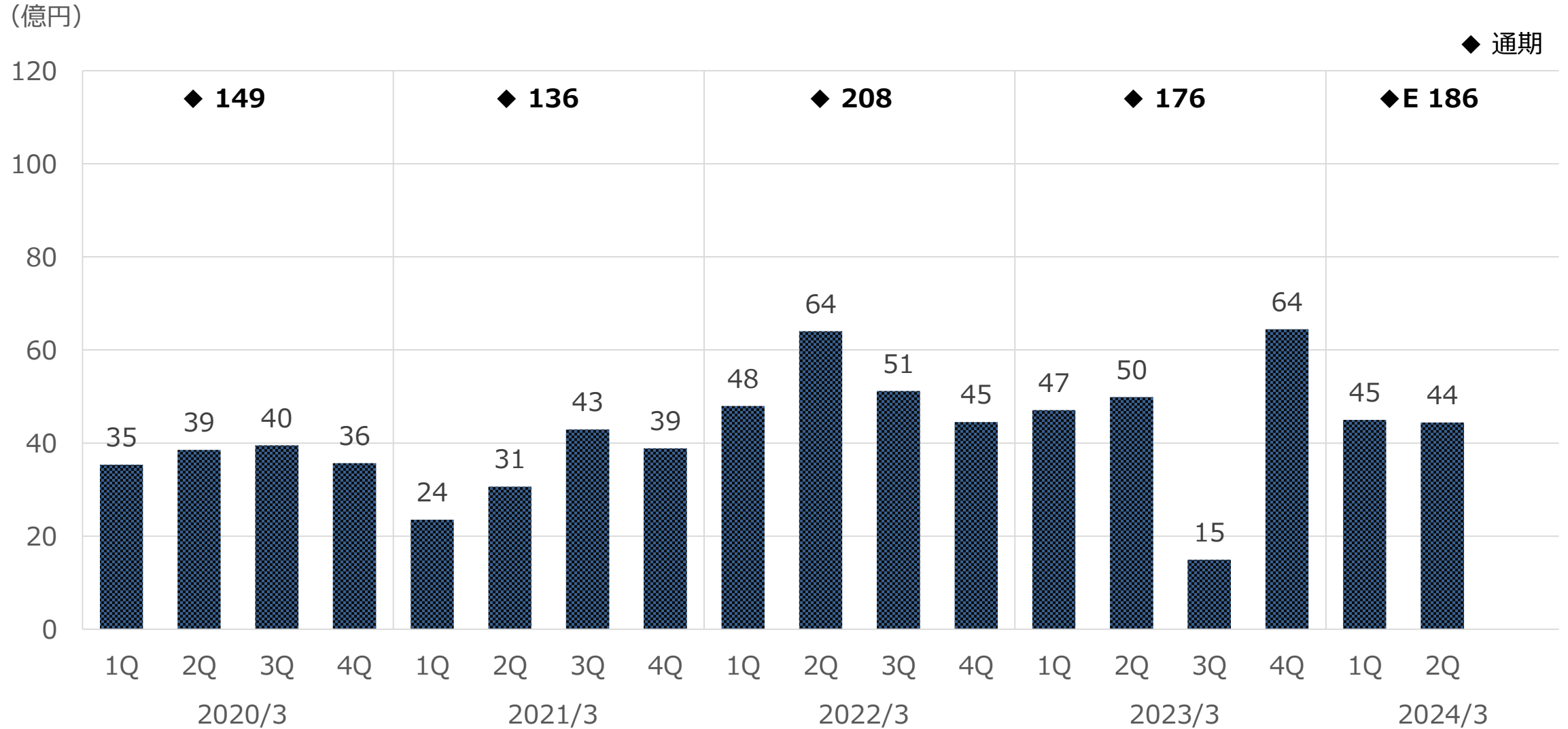
(million EUR)



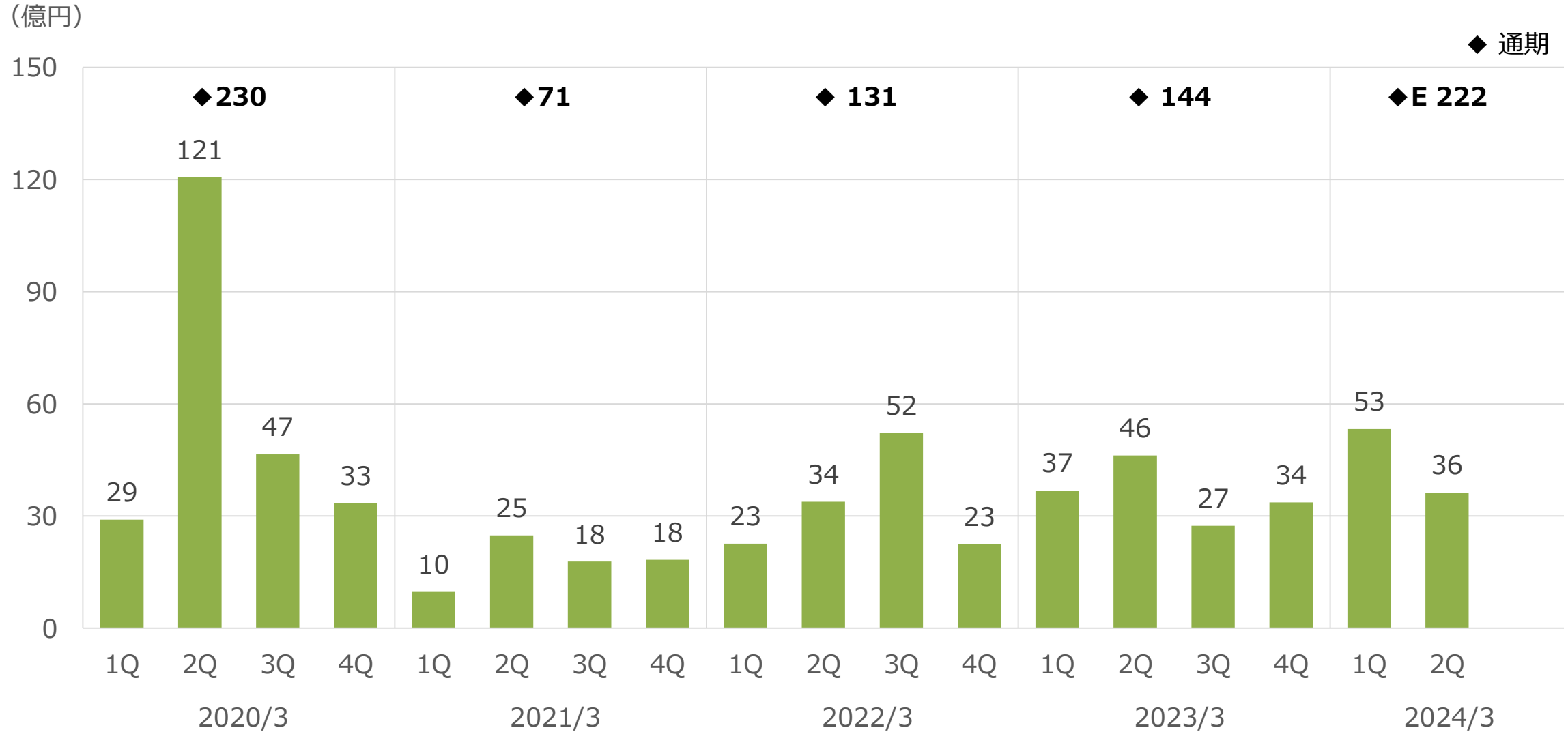
(million EUR)

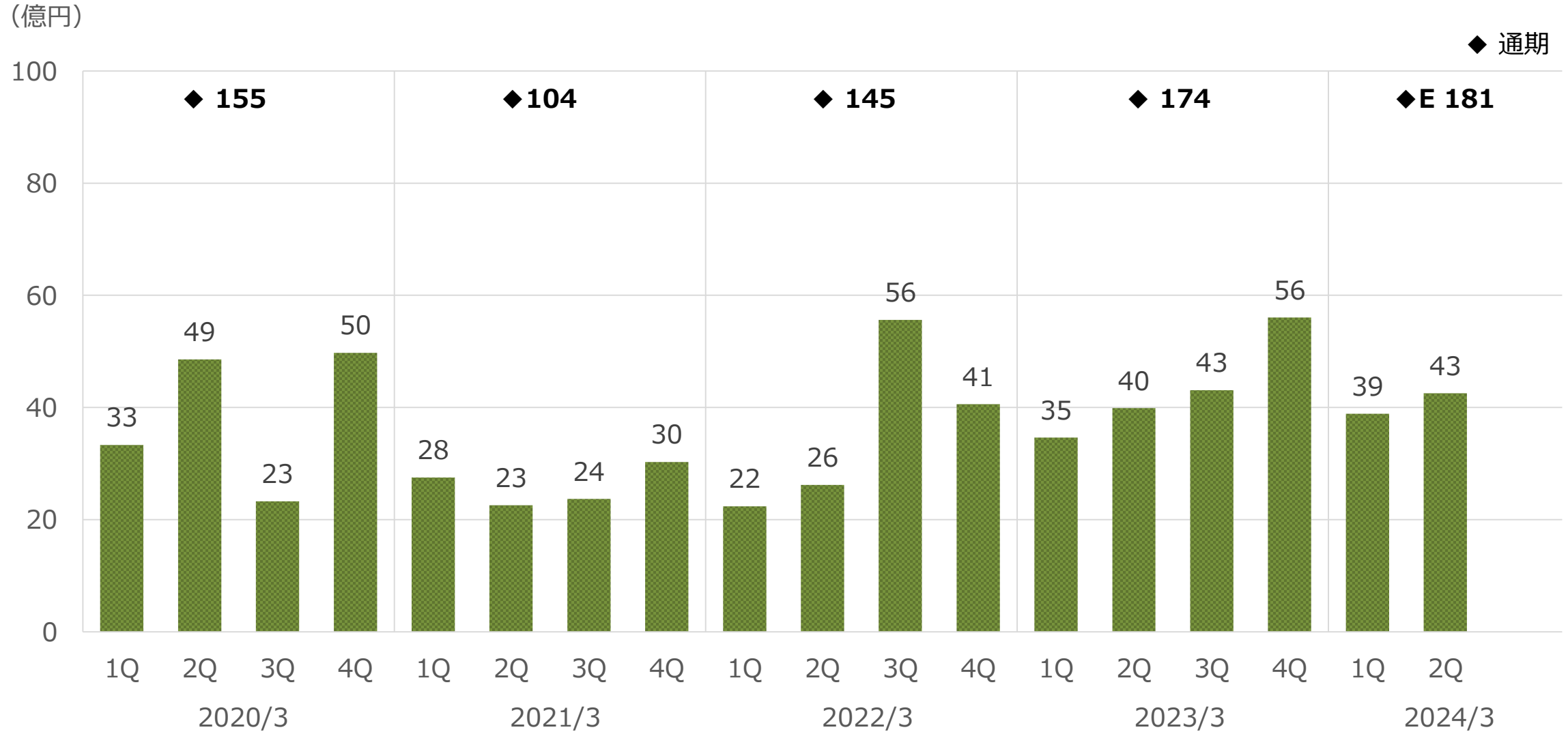












# 2024年3月期（78期）上期決算説明資料

## 経営概況





2023年11月10日





株式会社小森コーポレーション  
代表取締役社長（CEO）  
持田 訓



# Contents







---

1. 2024年3月期上期実績と下期計画
  - ① 各地域市場動向
  - ② 上期受注/売上結果と下期計画
2. 2024年3月期重点課題の進捗状況
  - ① 創業100周年記念イベントを世界各地で開催
  - ② SERIAが源流の森 再生ワークショップに協賛
  - ③ 東莞展Print China 2023に出展
  - ④ KGC-S / Komori Global Center - Securityを開設
  - ⑤ 東京カメラ部2023写真展 出展
  - ⑥ PE要素技術開発センター（PEDEC）竣工
3. 資本政策の変更について

地域	2024年3月期（78期）上期の状況	下期及び今後の見通し
<p><b>日本</b></p>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•国内はインフレ及び円安の影響を受け、消費者の購買力の低下により、チラシ及び販促等の印刷物が減少したため売上の減少傾向が継続</li> <li>•オペレーターの減少及びエネルギー源が高騰した影響で生産性、効率化に向けた設備検討が主流で受注は堅調に推移</li> <li>•省エネ補助金を活用した設備投資が活況で市場拡大しているが、業界の二極化は更に進み市場減少は継続</li> </ul>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•地政学的リスクの影響を受け材料の高騰、資材及び部材の遅延等未だ、先行きの見えない市場は継続される</li> <li>•入国規制が緩和されたが中国からの観光客は未だ少なく爆買いは期待できない。薬品・化粧品・電化製品等及び旅行会社、イベント会社、お土産関連の発注は鈍化傾向で期待は薄い</li> <li>•設備投資はビジネスが動いている主要都市に絞られ、地域の二極化が進み業界の再編が進んでいく</li> </ul>
<p><b>北米</b></p>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•製造業は低調。急激な金利上昇、銀行の貸し出し姿勢の厳格化により設備投資が抑制されている</li> <li>•特に中堅商業印刷会社向けの融資リスクが高いと評価され、商業印刷会社向けの商談は中断・延期</li> <li>•優良印刷会社が投機対象となり、経営者が1年単位での交代が発生</li> </ul>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•商業印刷向け商談は引き続き停滞し受注が遅れるリスクがある。一方、パッケージ印刷向け設備需要は堅調で10色両面コーター機など、単価の高い機械構成の受注に期待</li> </ul>

地域	2024年3月期（78期）上期の状況	下期及び今後の見通し
<p><u>欧州</u></p>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウクライナ戦争等によるエネルギー/資材供給難、インフレ影響の継続で製造業全般において苦戦が顕著、印刷会社も同様の傾向</li> <li>・金利上昇が続いており、商業印刷分野を中心に設備計画の様子見や延期が続いているがパッケージ、ラベル印刷の設備意欲は比較的堅調で多色機商談増加</li> </ul>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済先行きの不透明感により設備投資の様子見傾向は続き通期の受注見通しでも改善は厳しい</li> <li>・堅調なパッケージ向け商談での競合他社との競争激化</li> </ul>
<p><u>中華圏</u></p>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ後の景気回復が期待されたが、大手不動産会社の経営危機などの影響があり、景況感が悪化</li> <li>・2022年の中国全産業GDPが3.6%に対して印刷産業は0.4%。23年は更に低下する見通し。特に商業印刷向け需要が減退</li> <li>・23年1-6月の印刷業の輸出出荷額は減少が加速。米中貿易摩擦などの影響もあり、China+1の動きが活発化、輸出向けパッケージ会社はクライアントと共にASEAN(ベトナム)へ進出する傾向</li> </ul>	<p style="text-align: center;"></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製造業の労働力確保は深刻化しており、印刷オペレーターの人件費はコロナ前比で+36%上昇。省人化、自動化、設備合理化ニーズに対する提案を強化</li> <li>・中華系印刷会社のASEAN工場向け設備ニーズの増加が見込まれる</li> </ul>

地域	2024年3月期（78期）上期の状況	下期及び今後の見通し
<p><u>その他</u></p>	<p style="text-align: center;"></p> <p><b>【インド】</b>                      ・パッケージ、商業・出版需要は継続しているが、競合他社も積極的に活動しており、商談時に競合することが増えている</p> <p><b>【韓国】</b>                      ・商業・出版向けの需要は一巡し、引合いは減少しているが、パッケージ、高付加価値印刷セグメントでの需要は堅調</p> <p>・オペレーター不足で自動化・省力化仕様へのニーズが顕著</p> <p><b>【アジアパシフィック】</b>                      ・米中関係の影響により、米から仕事がベトナム、マレーシア等へ流れていると言われるが、為替（ドル高）による資材価格高騰もあり、積極的な投資計画につながるまでには至っていない</p>	<p style="text-align: center;"></p> <p><b>【インド】</b>                      ・下期もパッケージ、出版・商業ともに引き続き堅調と予想される</p> <p>・パッケージ分野は薬品・食品系を中心に設備投資が堅調</p> <p><b>【韓国】</b>                      ・設備投資はパッケージ機は堅調。商業系印刷は老朽化設備の入れ替え需要がある</p> <p><b>【アジアパシフィック】</b>                      ・資材価格が安定してくることで設備投資計画が見込めるが設備できる会社とそうでない会社で2極化が進んでいる</p> <p>・インドネシアは引合いはあるものの、設備投資については様子見する傾向が出てきている。ベトナムは米中関係の影響から設備投資欲は強まることが予測されており、今後も注視必要</p>

地域	2024年3月期（78期）上期の状況	下期及び今後の見通し
<b>証印事業</b>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>紙幣印刷への需要は引き続き堅調で、各国で入替や新工場建設のプロジェクトが進行</li> <li>コロナ感染症で遅延していた入札プロセスが再開</li> <li>コロナ感染症で搬入遅延していた案件も入国規制の緩和で搬入・検収が完了</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>アジア・北米を中心に設備投資は底堅い</li> <li>新工場建設を計画している国が複数あり紙幣需要は継続</li> <li>24時間フル稼働のための機械納入後のヘルスチェック、保守、操作指導などの要請増加</li> </ul>
<b>DPS事業</b>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>枚葉デジタル機納入台数は着実に増えている。設置台数伸びよりも印刷出力量（枚数）の方が伸び率で上回っており、既設機も含めて台当たり生産数は増えている状況（デジタルで出来る仕事が増えている）</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>世界的なワーカー不足から来る熟練工の求人が難しく、オフセット機オペレーター維持確保が課題となっているため、操作性の容易さ、スキル要求度の低いデジタル機への置き換えは当面継続する</li> </ul>
<b>PE事業</b>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォンやパソコン（PC）、データセンター等の半導体の主要市場は回復の見通しが立っておらず、設備投資の延期／見送りが継続中</li> <li>脱炭素化に伴う自動車のEV化の加速により、有機多層基板向けの投資は活況</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>半導体、電子部品の在庫調整は、回復までに今後半年から1年を要すものと見込まれる</li> <li>EVの需要は今後も増加が見込まれており、多層基板需要は暫く継続する見通し</li> </ul>



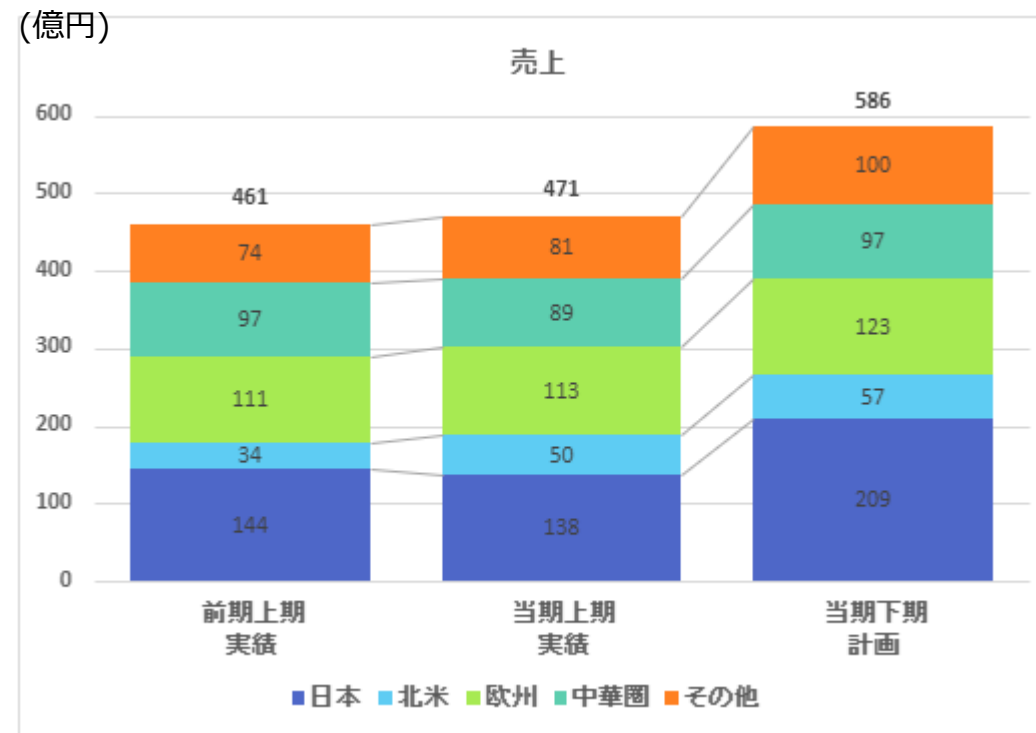
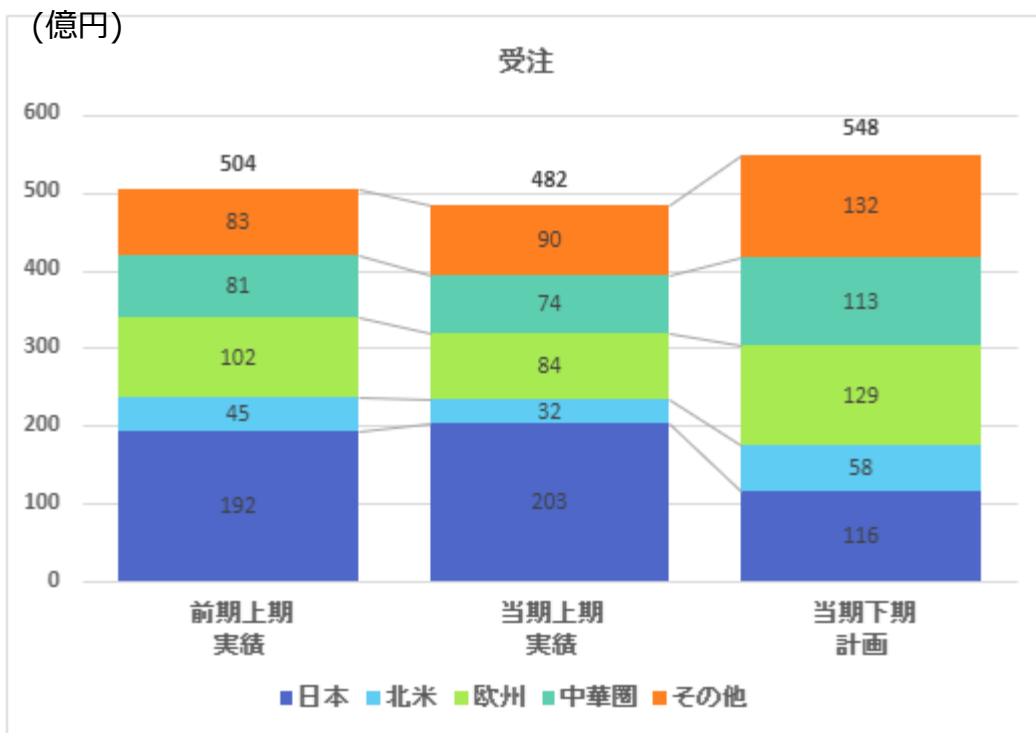
◆ 上期は主に海外市場の低迷により受注が伸び悩みましたが、売上は堅調に推移  
 ◆ 下期は海外の受注が伸びる見通しで、売上はすべての地域で増収の見通し

## 受注高

上期実績：482億円（前年同期比：96%）  
 下期計画：548億円（上期比：113%）

## 売上高

上期実績：471億円（前年同期比：102%）  
 下期計画：586億円（上期比：124%）



## パーパス「プリントテクノロジーで社会を支え感動をもたらす。」をグローバルでステークホルダーと共有

- 2023年に創業100周年を迎えたKOMORIは、世界各地で記念イベントを開催しました。
- 4月に行われた国内のお客様や関係者向けの「創業100周年記念式典」を皮切りに、7月には「パートナー企業様100周年祝賀会」を開催しました。これらのイベントでは、これまでの支援に対する感謝と、新たに制定したパーパスと長期ビジョンを共有しました。
- 海外においては、7月にインドのニューデリー、9月に韓国のソウルでそれぞれ記念式典を開催し、今秋以降も、各国で記念イベントを計画しています。社内向けには、子会社を含む国内全拠点をリモートで接続し社員向け記念式典を開催したほか、国内外の主要拠点で、社長と社員が直接対話するタウンホールミーティングを開催し、経営層と社員のエンゲージメントを深めました。





## 源流本来の涵養力を取り戻す。源流の森 再生ワークショップ「源流遊行祭2023～川ととけあう、いのち～」にSERIAがスポンサーとして協賛

- 源流遊行祭は一般社団法人長良川カンパニー(所在地：岐阜県郡上市、代表理事：岡野春樹)が主催する、長良川源流域の風土に関するイベントです。「日本三大清流」の一つである長良川は水質の良さと豊かな生態系で知られており、その源流域の風土に触れて感動したことを参加者同士で共有したり、風土を守るための手入りに参加したりすることで、自然の豊かさを次世代につなげることができます。
- 株式会社セリアエンジニアリングがある岐阜県郡上市は、日本のスクリーン印刷発祥の地といわれており、幼いころから川とのつながりを大切にしている社員も多くいます。SERIAは郡上の源流域の風土を守り、次世代へつなげていく長良川カンパニーの活動に共感することで、地域社会との共生に大きく貢献できると考え、この遊行祭に協賛しました。



- 2023年4月に中国・広東省東莞市で開催された「Print China 2023」に出展しました。中国のゼロコロナ政策が明け、行動制限もなくなり会場には多くの方に来場いただけました。
- “コネクテッド・オートメーション（Connected Automation）”をテーマに、中国向け差別化戦略機種であるリスロンG44アドバンス、リスロンGX40RPアドバンス、リスロンA37のオフセット印刷機3機種に加え、紙折り機MBO K90及び協働ロボットMBO Cobo-Stackを展示しました。KP-コネクトを軸に、人件費高騰、人材不足、収益性の改善といったお客様の課題を解決すべく、省力・省人化と工程管理のデジタル化、見える化をデモンストレーションの中で訴求し、多くの注目を集めました。
- KOMORIにとって創業100周年最初の海外主要展示会となった本展の初日には 記念記者会見を行い、多くのお客様より祝福と労いのお言葉をいただき、展示会を通してお客様からの期待の大きさを実感しました。





- 2023年10月に、つくばプラント構内にKGC-Sを開設しました。政府機関や印刷会社並びにそのサプライヤー向けに、KOMORIが65年以上を掛けて築き上げたセキュリティープリントテクノロジーを、印刷デモンストレーションやトレーニング、R&D活動などの形で提供します。
- KGC-Sは“Power to the Print”と“Trust in Print”がコンセプトです。銀行券印刷の基盤印刷技術は、オフセット印刷・凹版印刷・番号印刷で構成されどれも欠けても成り立ちません。KGC-Sにはあらゆるセキュリティープリントテクノロジーが体現出来る銀行券印刷機械、及びそのシステムが導入され、セキュリティー印刷のエキスパートが顧客の抱える課題を即時に解決します。KOMORIは世界中の政府機関、印刷会社、そのサプライヤーに信頼され、最終的には世界一安全で信頼される銀行券を世界中の人々に届けたいと考えています。



- 高精細で高品質なプリントテクノロジーで写真という文化を支える活動として、本年9月に開催された『東京カメラ部2023写真展「愛おしきこの世界。」』に出展しました。
- 創業100周年を迎えるKOMORIは、パーパス「プリントテクノロジーで社会を支え感動をもたらす」を新たな羅針盤とし、様々な企画を実施しています。本写真展では、KOMORIのプリントテクノロジーであるインクジェット印刷機「インプレミアNS40」と「インプレミアIS29」でプリントした高精細ラージフォトの展示を行い、4日間で15,059名の来場者に体験いただきました。
- 今回のテーマは「イマーシブな感動体験」とし、1.5m×2mのB1四倍サイズをはじめ大きなサイズで16人の写真家による高解像度の写真を展示し、高精細ラージフォトでなければ見えない世界の体験を提供しました。まるで写真の中の風景に入り込んだかのような、“イマーシブ＝没入できる”体験をお楽しみいただきプリントテクノロジーによる写真の新たな可能性をご紹介します。



- KOMORIはプリントドエレクトロニクス（PE）事業を成長事業として位置付ける中で、エレクトロニクス業界の急速な進化に対応するため、要素技術の開発基盤を整え、技術競争力の確立を目的として、PE要素技術開発センター（PEDEC）を設立し、本年10月より本格稼働を開始しました。
- 施設の実験エリアは、高水準の清浄環境を整えるためクラス1000のクリーンエリアを完備し、KOMORIの印刷機とともに各種測定分析機器を設置する事で、実験から試作品の提供に加え、アプリケーションレベルでのデータ要求にも対応出来る設備を揃えました。今後は本センターを活用して、PE技術の可能性を追求するために、パートナー企業との協同開発や産学連携によるオープンイノベーションを推進してまいります。



## ■第6次中期経営計画(2019年4月1日から2024年3月31日)での資本政策

- ・株主還元 ➡ 最終利益（特別損益以下は別途考慮）の 80%以上
- ・純資産圧縮 ➡ 中期経営計画での財務方針に沿って圧縮（目標では自己資本比率 65~70%程度）

2019年3月	純資産1,301億円	自己資本比率	77.7%
2023年3月	純資産1,071億円	自己資本比率	64.6%

## ■今後の資本政策の方向性

- ・長期ビジョン2030に沿った次期中期計画の策定（2024年5月公表予定）
- ・株主還元と成長投資のバランス見直し
- ・重点分野へのM&Aを含めた投資への資金配分拡大と財務健全性の維持
  
- ・長期ビジョン KOMORI 2030 への対応 ➡ 成長分野への投資拡大（PE事業・DPS事業）  
➡ 基盤事業の収益性向上（オフセット事業・証券印刷事業）
- ・マルチステークホルダー方針 への対応 ➡ 人的資本への投資拡大  
➡ 協力企業とのパートナーシップ強化対応



# KOMORI

- ※ 当資料に含まれている業績予想等は、本資料の現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり  
実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。
- ※ 当資料では表示未満単位を四捨五入して表示しており、内訳と合計が一致しない場合があります。